

つれなかりければよみて送ける。

我といへばつらくもあるかなうれしさは人に随ふ名にこそ有けれ、入道殿きかせ給て、秀歌には返事なし、とくゆけとて、つかはされける。

〔宇治拾遺物語〕いまはむかし治部卿通俊卿後拾遺をえらばれけるとき、秦兼久、行向ひて、おのづから歌などやいと思て、うかゞひけるに、治部卿いでゐて物がたりして、いかなるうたかよみたるといはれければはかゞしき候はず、後三條院、かくれさせ給てのち、圓宗寺にまゐりて候しに、花のにはひは、むかしにもかはらず侍しかば、つかうまつりて候しなりとて、

こそみしに色もかはらずさきにけり花こそものはおもはざりけれ、こそ仕りて候しかといひければ、通俊卿よろしくよみたり、たゞしけれりけるなどいふ事は、いとしもなきこと葉なり、それはさることにて、花。こ。ぞ。い。ふ。文。字。こ。そ。め。の。わ。ら。は。な。ど。の。名。に。ま。つ。べ。け。れ。とて、いともほめられざりければ、ことばすくなにてたちて、侍ごもありける所に、この殿は、大かた歌のありさままゝ給はぬにこそかゝる人の撰集うけたまはりておはするば、あさましきことかな略○下

〔空穂物語 忠こそ〕右大じん橋の千かげと申すおはしけり、○冲御めには一世の源氏、かたちきよらなる名とり給へるが、十四さいなるをば給てすみたまふ程に、十六さいといふとしの五月五日に、たまひかりかゞやきたるをこのいとをかしげなるをうみ給へり、なをばたゞこそといふ。

〔類聚名物考 姓氏八〕こそ 何こそ

女の名に何こそといふ名あり、或人は糞くその意にていやしめて付ともいへり、古今集の作者にはすでにくそといへる名も有、うつほ物語にたゞこそその君といふあり、その外、金葉集にも相